

## 英国等における現地調査報告

本協議会では、海外におけるスポーツ DX の最新動向やスポーツ産業の実態調査を行っております。この度、2022年9月9日から15日にかけて、英国（ロンドン、バーミンガム）、スイス（ニヨン）、ドイツ（フランクフルト）を訪問し、以下の通り現地調査を行いましたのでご報告いたします。

### ■ 調査概要

プロスポーツリーグ、スポーツブックオペレーター、データプロバイダー、規制当局等のステークホルダーを訪問し、英国におけるスポーツベッティングに関する最新事情、インテグリティ確保のため角界で行われている取組み等についてヒアリング。

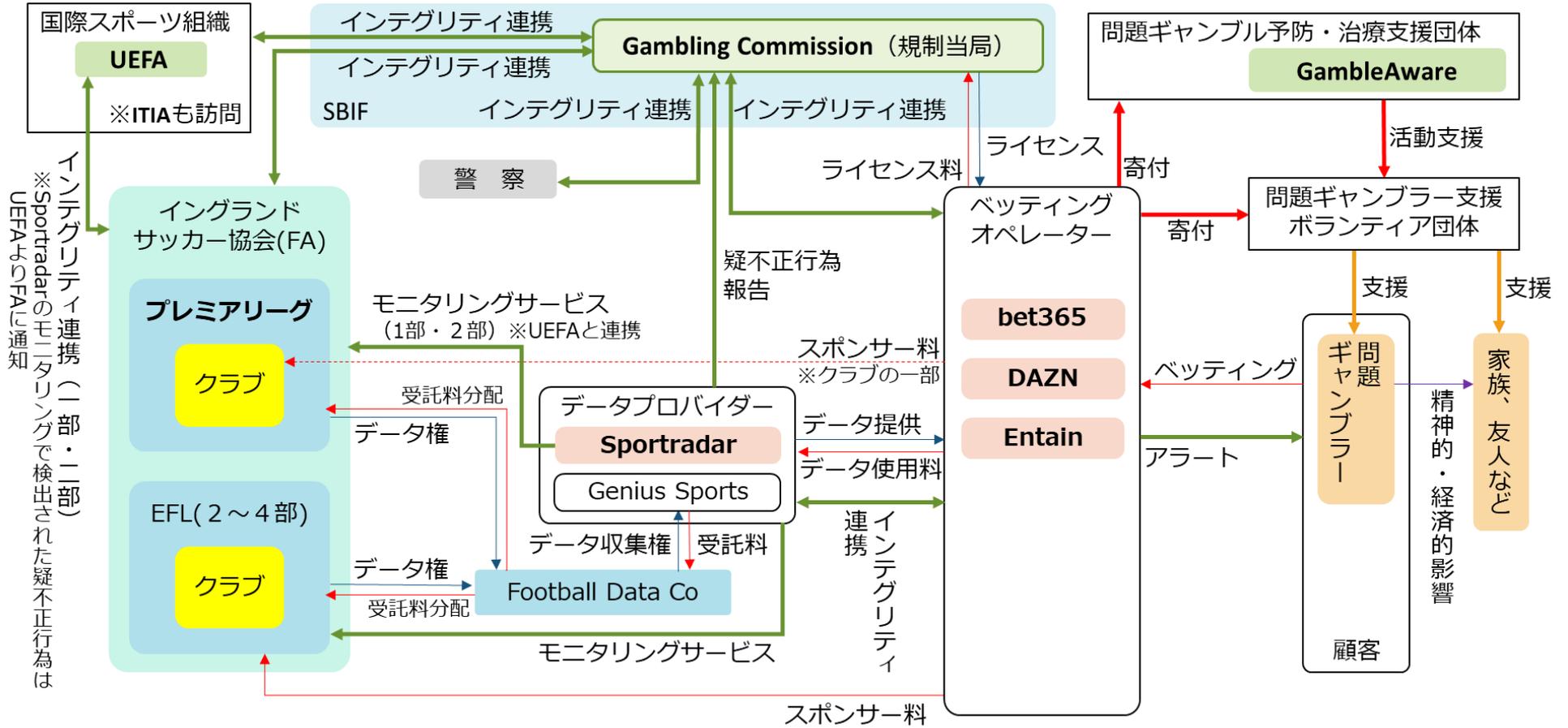
### ■ 訪問先

- ・スポーツ関係国際機関：International Tennis Integrity Agency (ITIA) 本部、Union of European Football Associations (UEFA) 本部
- ・プロスポーツリーグ運営団体：Deutsche Fußball Liga (DFL) 本部、Premier League 本部
- ・スポーツブックオペレーター：bet365 ロンドン支社、DAZN 本社、Entain ロンドン支社
- ・データプロバイダー：Sportradar ロンドン支社
- ・英国慈善団体：GambleAware 本部
- ・英国規制当局：Gambling Commission 本部

### ■ 総括

- ✓ 英国では 1960 年、ライセンス制の整備によりスポーツベッティングが合法化。2005 年ギャンブル法成立により規制当局が改組されるとともに、オンラインベッティングが規制の対象に加えられた。しかし近年のオンラインベッティング拡大に伴い、特に若年層へのギャンブルによる危害防止の観点から現行規制の見直しが進められており、改正案が近々提出される予定。
- ✓ 過度に事業者を縛らない事後型中心の規制の下で市場も成熟し、インテグリティ確保や依存症対策と収益化のバランスをとった資金循環システムが確立している。特に依存症対策については、スポーツブックオペレーターも慈善団体等への寄付や最新テクノロジーの導入などの収益還元及び対策を積極的に行っている。
- ✓ インテグリティ確保についても、データプロバイダーの持つ監視システム導入に加え、規制当局に置かれた専門ユニットが中心となり、スポーツブックオペレーター、スポーツ団体、警察、規制当局等が連携する体制がとられている。
- ✓ なお、法令遵守の立場からライセンス制度のある規制市場のみで運営するポリシーを掲げるスポーツブックオペレーターが存在する一方で、独自の法解釈により規制のない市場でも運営を続けるオペレーターも見受けられ、これが日本向けのサービスが実態として存在する要因の 1 つと考えられる。

※各ステークホルダー間の関係（主に英国サッカー関係）



公表日：2022年12月15日